

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム さっちゃん家		
日付	平成17年3月31日		
	特定非営利活動法人		
評価機関名	高齢者と痴呆の人のケアを大切にす会		
	LIFE SUPPORT推進グループ		
	評価調査員	在宅介護経験10年	
	評価調査員	在宅介護経験8年	
自主評価結果を見る (まだリンク先はありません)			
評価項目の内容を見る			
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)			

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か 「お年寄りも、子供も、障害者も共に地域の中で暮らそう」という法人の理念を具体化して、「地域に根づき、地域に受け入れられる」「地域の人々と共に生きる」「自分も入りたいと思う」グループホームを目指して、ホーム長、管理者、職員全員で取り組んでいる。 年末には「餅つきとフリーマーケット」、年始には「とんど焼き」をして、家族や地域の人、色々な関係者が集まって賑やかな一時を過ごしたことが、地域との連帯の密着度を物語っている。菜園にも沢山の地域の人が種や苗を持って来て植えてくれる。田んぼも隣の農家の人が一部を貸してくれて、利用者も田植えや収穫が出来る。自分の家で収穫した野菜や果物の差し入れも沢山ある。 まさに、利用者と職員は「さっちゃん家」の家族を形成して毎日を楽しみ過ごしているが、地域の人々がこのホームを支援している姿も頼もしい。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か 築75年の建物の外観は昔そのもの。利用者も自分の住んでいた家の郷愁を覚える。内部は改装しているので今様になっているが、開口部は掃き出し窓なので、明るく風通しも良い。南向きの部屋は陽なたぽっこして気持ち良さそう。南向きの部屋と北向きでは地元の人と相談したところ、一寸部屋代の格差がある。各部屋は画一的でなく、大きさも形もまちまち、そこに各自の使っていた家具で満たされている。思い出の写真や家族の写真も飾り、个性的である。居室内から鍵もかけられ、プライバシーも保たれる。リビングルームは畳の部屋に座布団とソファがあり、自由な姿で過ごしている。中を歩き回る人もいるが、段差をちゃんと弁えている。スリッパなんか履かなくても良い。建物の周辺は広い空地、物干し場、菜園、農園、仕事場があり、豊富な空間である。色々な物を造るのは、近所の人々が来て日曜大工してくれる。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のベースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など) 市街地に近い農地の中の大きな古い民家を借り受けて、改造したデイサービス併用のグループホームである。古い農家の2棟をつなぎ改造した建物なので、段差はあちこちにあるが、利用者にとっては住み慣れた自宅と変わらない居心地に違いない。 大きな施設、新築のグループホームはバリアフリーにしたり、歩ける人でも車椅子や歩行補助具を使わせるが、ここでは手摺と簡単なスロープのみ、利用者は受身にならず、自分の力で歩き、段差を踏み越えて「生きる力」を取り戻している。勿論職員の見守り、寄り添いは目立たず、杖程度で自然な形でケアしている。利用者は6人とこじんまりした世帯で、地域の人が多く馴染みがあり、気心もよく分かっている。利用者の居室は南面3部屋、北面3部屋がある。南面の部屋には以前からの前庭があり陽当たりも良いので、みんなが勝手にその部屋に自由に入出入りして楽しんでいる。一人ひとりの経験と能力に応じて家事に参加しているが、特に一人の男性の利用者が調理、洗濯、買物など積極的に家事をこなしていて心強い。ボランティアの人かなあと思わせる微笑ましい姿である。 このように利用者が積極的に仕事に参加し、よく動くことは、生活そのものが大変能動的で、これからの介護予防の先取りである。このグループホーム開設前に、ホーム長、職員が地域の会合や住民のところへ長い間出掛け、地域の人々への理解と協力のためにコミュニケーションを十分にした結果、地域密着型の小規模多機能の認知症高齢者ケアシステムが構築出来た。将来これからの時代の先駆的事業として注目していきたい。
特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした 家の周りには増築可能な広い庭がある。この空地を活用して利用者が、日頃外で遊んだり、運動したり、レクリエーションが繰り返されるような仕掛けを考えて、利用者の心身機能低下の予防をして貰いたい。 地域の人々は申し分ない関係になっているが、良い季節になれば、前記の庭で、利用者と家族の人、地域の人々が混じり合って話をしたり、来訪の序にあちこちで井戸端会議の姿が見られる「楽しいグループホームになるだろうな」と想像している。

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か 開設して半年余りであるが、10年余り法人の施設や在宅支援サービスで取り組んできたホーム長が、高齢者の看護やケアマネージメントの経験を生かして、このグループホームとデイサービステーションを立ち上げた。 一人ひとりの経験や能力をしっかり把握して、維持・回復に努力して、「病院で車椅子に拘束されていた人が、現在は段差なんか何のその。一人で歩き回っている。」「長い距離を徘徊していた人が、犬の散歩と毎日の買物で、今は落ち着いた生活をしてる。」等元気に過している利用者とな談することが出来た。 現在「気づきシート」という新しい書式を作り、利用者一人に対し全部の職員が各々シートを作り、利用者の気持を探る。どんな場面で気づいたのか、利用者の希望、職員がどう関わったら良いか等を書き、職員間で討論するそうだ。法人内のモデルにもなっていくそうだけれど、素晴らしい具体的な試みで、利用者一人ひとりをどのようにケアしていったら良いのかの具体的な実践である。今後の活用を期待したい。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 岡山県中央福祉会を母体とするグループホームである。総合福祉介護事業を地域一体として展開しており、友の会は地域ボランティアを組織化し、助け合いの活動をしている。その理念を受け継いだグループホームであるので、職員一家族ボランティア地域が一体となり、認知症の高齢者の生活を支援している見事なグループホームである。このグループホームは農家改造型として始めて開設したが、これからこのような形態で各地に小規模多機能のケアシステムが展開されるだろう。 このグループホームの家族も良く訪れる。家族会も発足させる予定で、家族とのコミュニケーションも良くとれている。今の所「さっちゃん家通信」が発行されており、家族や地域の町内会に配られている。グループホームの暮らしぶりも分かるが、「こんな家具、電気製品が欲しい。要らなくなった物を提供して下さい」とお願いしておく、家庭内で不要になった物が集まる。中々ユニークな展開です。これからの本格的活動を見守りたい。		